

第374施設中隊と自衛隊、CBRN訓練で相互運用性を磨く 374th CES, Japan forces hone interoperability during CBRN training

June 21, 2024

By Staff Sgt. Spencer Tobler
374th Airlift Wing Public Affairs

第374施設中隊の緊急事態管理小隊は6月6日と11日、航空自衛隊と陸上自衛隊の隊員を横田基地に招き、二国間の緊急事態管理訓練を行った。

訓練では、化学、生物、放射性物質、核に関する幅広いテーマを取り上げ、危険物質に関する座学、任務に応じた防護態勢服の実技、除染手順の実習を行った。

第374施設中隊司令マイケル・ブルーガー中佐は「これらの訓練は、日本の同盟国との関係構築を目的としている。互いの装備、戦術、技術、手順に慣れるまで、そして最終的には共同運用するところまで続けていく」と述べた。

航空自衛隊作戦システム運用隊の隊員は6月6日、CBRN対処講習を受講し、緊急事態管理の基礎を学んだ。同空自隊員は、模擬の訓練で自分たちの防護具(PPE)を使用した。

第374施設中隊緊急事態管理連絡官ヒラノ・ユキヒデ氏は「自分たちのPPEを使用して実務訓練を受けるのは今回が初めてだ。我々の知識を共有し、米空軍がどうCBRN対処を行っているかを見てもらう機会だ」と説明した。

陸上自衛隊練馬駐屯地の化学防護隊は6月11日、横田基地を訪問し二国間交流と専門官同士の交流を行った。第374施設中隊と陸上自衛隊の両部隊は、汚染エリアの特定、感染エリアの規制線張りや除染の実働訓練を行った。また、それぞれの装備品の類似点と相違点について議論し、能力を検証し、改善方法について話し合った。

二国間訓練は、同盟国部隊との関係を強化するコミットメントを示すものであり、地域の安全保障を推進し、要請があった際に迅速に成果を上げる戦力を整えるのに役立つ。

ブルーガー中佐は「太平洋地域の平和は共通の望みである。平和を維持するためには戦争を抑止しなくてはならない。地域の潜在的な敵国に対して、彼らが考えうるいかなる種の攻撃にも対応できる能力があることを示す必要がある」と語った。

